

**タウンニュース** 06年6月 県内全域・町田市をネット 計2,210,870部 折込配布

サイト内検索：キーワードを入力  **検索**

- ホーム HOME
- エリア情報 AREA INFO
- イベント EVENT
- クーポン COUPON
- 編集室 EDIT ROOM
- 会社概要 OVERVIEW
- 不動産 REAL ESTATE
- 自費出版 PUBLICATION
- IR情報 IR INFO

> ホーム > エリア情報 > 茅ヶ崎版 > トップ記事

2006年4月28日号

## Area Info エリア情報

### 茅ヶ崎版 [トップ記事](#)

[茅ヶ崎版一覧へ戻る](#)

# キッチンからみえたニューヨーク

文教大生 ニューヨーク研修旅行でホームレスボランティアを体験



スープキッチンの調理場で

ボランティアを通じて実社会を体感しながら、生きた英語と世の中を学ぶ。文教大学国際学部の学生が、ニューヨークでスープキッチンというホームレスボランティアを体験した。初めての経験に戸惑いながらも、現地の人との交流を深めた。

文教大学国際コミュニケーション学科3年生の生田祐子ゼミは、2月28日から、ニューヨーク研修旅行に出かけた。現地では国連本部を訪ねUNDP（国連開発計画）で働く日本人スタッフに仕事の話を聞いたり、NormanThomasHigh Schoolで、高校生と文化交流を行ったりした。

中でも学生たちが一番印象に残っているのが、「スープキッチン」体験。このボランティアを紹介したNY de Volunteerの代表日野紀子さんは文教大学短期大学部英語英文科の卒業生。4年前に非営利組織を立ち上げた。ニューヨークにいる日本人留学生にボランティアを通じ、社会を知ってもらおうと活動している、今注目の人だ。

「スープキッチン」とはホームレスに食事を作り提供する仕事。ボランティアには、現地の高校生や学校の先生、10年以上ニューヨークに住んでいる日本人もいた。料理の盛り付けをしながら会話を楽しみ、ニューヨークの人や日常が見えてきたという。コーヒーガールズという給仕の仕事について学生は、ホームレスとの交流をした。「怖いというイメージがあって最初は抵抗があった」と話す小原香澄さん。しかし話しをするうちに固定観念は崩れていったという。

生田助教授は、「スープキッチンはアメリカではポピュラーなもの。社会の一面が見られる機会」と話す。小林志保さんは「いろんなところでいろんな助けを必要としている人がいる。自分が必要とされているところで働きたいと思った」と感想を話した。

[茅ヶ崎版一覧へ戻る](#)

## Shop Info ショッピング情報

- グルメ GOURMET
- 美容 BEAUTY
- ショッピング SHOPPING
- ペット PET
- 生活 LIFE
- レジャー LEISURE
- 健康 HEALTH
- スクール SCHOOL
- 住まい LIVING
- マネー MONEY
- 求人 RECRUIT

## Other Info その他の情報

- 旅行
- プレゼント
- 占い
- CINEMA
- Webアルバム
- サークル
- 特集

- [ご意見・投稿](#)
- [広告のご用命](#)
- [当社不動産部](#)
- [リンク](#)